

から RAHO6 を訪問し、通算で 5 回目となる調査を行いました。北部地域では、ハノイ市とナムディン省（図）にある計 24 農場を調査対象とし、2～12 週齢の豚（哺乳豚、離乳豚、肥育豚）の鼻腔拭い液を合計 400 検体採取しました。私は、11 月 30 日にハノイから東南に約 90km 離れたナムディン省に設置された Sub-Department of Animal Health of Nam Dinh Province のスタッフの協力の下(写真 1)、7 農場で鼻腔拭い液の採材を行いました。北部地域で採取した検体の遺伝子診断の結果は、全て陰性でした。

南部地域では、ホーチミン市、ドンナイ省、バリア-ブンタウ省、ティエンザン省の 4 地域にある 19 農場を対象とし、5～11 週齢の離乳豚又は肥育豚の鼻腔拭い液を合計 399 検体採取しました。私は、12 月 12 日にホーチミン市にある 4 農場で採材を行いました（写真 2）。RAHO6 での遺伝子診断とウイルス分離の結果、H1 亜型 SIV が 8 株、H3 亜型 SIV が 7 株分離され、ホーチミン市、ドンナイ省、バリア-ブンタウ省では初めての SIV の分離例となりました。詳しい解析は現在進行中で、一部の SIV はこれまでにベトナムで報告されたことのない



写真2. SIVが分離された離乳豚の飼育の様子
（ホーチミン市）

遺伝子の組み合わせを持ったウイルスであることが分かってきました。

これまでの 5 回の調査を通して、ベトナムにおける SIV の浸潤状況が徐々に明らかになってきました。今後も、平成 27（2015）年まで年 2 回のペースでベトナムでの調査を継続していく予定です。最後に、本調査にご協力頂いているベトナム家畜衛生局のスタッフ、研究者および動物衛生研究所ウイルス・疫学研究領域インフルエンザスタッフ一同に感謝いたします。

TOPICS

NARO Research Prize Special I の受賞

農研機構 10 周年行事懇談会（平成 23 年 12 月 5 日）で NARO Research Prize Special I の授賞式が行われ、11 名の研究グループを代表して毛利資郎プリオン病研究センター長に、理事長より表彰状と記念のトロフィーが授与されました。この賞は、第 2 期中期目標期間において創出された農研機構の研究成果のうち、中長期的研究を経て、生産現場への普及や国民生活の向上に結びつくなど、日本農業・食品産業の技術の進歩、発展に大きく貢献した成果に対して授与されるものです。

表彰対象研究成果

「プリオン病（BSE など）の防除技術の開発」

研究の概要

試験管内でのプリオン増幅技術を用いて、BSE 牛の異常プリオンたんぱく質の超高感度増幅検出法を確立しました。異常プリオンたんぱく質検出用プローブとして、各種の特異抗体を作製し、国産の BSE 診断キットの市販化など BSE の防除技術の開発に貢献しました。さらに、動物衛生高度研究施設を活用して、BSE および非定型 BSE の実験感染牛を作出し、異

常プリオンたんぱく質の体内分布と蓄積時期を特定するなどの発病機構の解明につながる研究成果など、国内外の対策に貢献する多くの科学的知見を生み出しました。

（研究調整役）

